2014 年度国際経済学 2 (計 14 回)

下川　雅嗣
http://pweb.sophia.ac.jp/shimokawa/
研究室 2 号館 6 階 611(内 3576)

国際経済学 1 の講義内容を前提として、さらに国際経済の理論及び現実経済への応用的側面も扱いながら、より社会を深く観る目を養うことを目的とする。国際経済学 1 で紹介した貿易理論を用いて、国の経済成長、援助等の所得移転、関税等の貿易政策がその国や他の国々にどのような影響を及ぼすかの分析を行う。また、各種貿易政策の厚生分析、規模の経済から生じる産業内貿易、さらに発展途上国の工業化のための貿易政策、先進国の産業貿易政策等を扱う。その際、貧困国側の視点にも触れて見たい。国際経済学 1 と 2 は連続した講義である。国際経済学 1 を受講してない場合は、ミクロ経済学の基礎と下記準教科書①の 4 章までの理解があることを前提とする。

＜評価方法＞　成績評価は学期末試験による。場合によってはレポート提出で 20 点分加点する可能性もあるが、これについては開講後、受講生と相談した上で決定する。

＜授業時間外の学習について＞

復習が重要である。この授業では、論理的思考の表現として、図（グラフ）を多用する予定である。この図示においては、完成した図を写すことや覚えることはあまり意味がなく、メカニズムを表すために書く順番が重要であり、その図をメカニズムに沿って自分で正しい順番で書けるようになることが重要である。よって、毎回の授業後に、忘れないうちに自分でメカニズムを考えながら順番どおりに図を書いていく復習が必要である。なお、復習だけではついていけそうにない場合は、指定した参考書の該当箇所を事前に読んでおくことを勧める（なお、これらの該当箇所は、授業で講義する内容や視点とは必ずしも一致しないが、参考にはなるはずである）

＜準教科書＞

①クルグマン・オブズフェルド（石井・浦田・竹中他訳）『国際経済—理論と政策：Ⅰ国際貿易』第３版、新世社。→5、6、9、11、12 章

(別訳)　クルーグマン・オブズフェルド著（山本他訳）（2014）『クルーグマンの国際経済学—理論と政策（原著第 8 版）：上巻　貿易編』、丸善。

(原著)　Krugman, P. R. , Obstfeld, M. and Melitz, M. (2014), *International Trade: Theory and Policy*, 10th Edition, Prentice Hall.

②Ray, D. (1998), *Development Economics,* Princeton University Press.→ch.17（18）

（特に発展途上国の貿易政策について）

※この章だけのコピーを 3 部、私の研究室においておきます。オフィスアワー（木曜日 3 時－5 時）等に来てくだされば、一日以内で御貸しいたしますので、コピーをしてください。本格的に経済発展論を行う人には全体が良い本ですので購入もお勧めします。

＜参考書＞

③ハジョユン・チャン（横川信治, 張馨元, 横川太郎訳）（2009）『はしごを外せ—蹴落とされる発展途上国』日本評論社（Ha-Joon Chang (2002) *Kicking Away the Ladder: Development Strategy in Historical Perspective (Anthem World Economics Series)*, Anthem Pr.→ミュルダール賞レオンチェフ賞受賞本）

④クルグマン（山岡洋一訳）(1997)『クルーグマンの良い経済学、悪い経済学』日本経済新聞社（Krugman, P. 1996, "Pop Internationalism," MIT press）。⇒日経ビジネス人文庫からも出ている（780 円）

⑤石川 城太・菊地 徹・椋 寛（2013）『国際経済学をつかむ』第２版、有斐閣。

→国際貿易論に焦点を当てた国際経済学の初級入門書。そのエッセンスを 8~10 ページの「ユニット」ごとにまとめ、数式をできる限り用いずに図や身近な具体例で丁寧に解説。IT や環境政策が貿易に与える影響、貿易政策の政治経済学など,最新かつホットなトピックも充実。

⑥阿部顕三・遠藤正寛（2012）『国際経済学』有斐閣アルマ。

⑦木村福成『国際経済学入門』日本評論社。

⑧矢野誠（2001）『ミクロ経済学の基礎』岩波書店→ミクロ経済学の考え方を理解するには最適。

＜予定＞

１．イントロダクション。春学期の復習。以下の内容の開始。

２．国際貿易の基本モデルⅠ：交易条件→①５章

３．国際貿易の基本モデルⅡ：経済成長、国際所得移転（海外援助）の影響→①5 章

４．国際貿易の基本モデルⅢ：関税や輸出補助金等の貿易政策の影響→①5 章

５．規模の経済と国際貿易Ⅰ：産業内貿易→①6 章④6 章⑤3 章⑥5 章。
内部的規模の経済、独占的競争モデル、フラグメンテーション理論、メリッツ・モデル

６．規模の経済と国際貿易Ⅱ：外部的規模の経済と国際貿易→①6 章④6 章⑤5 章⑥5 章。
動学的収穫逓増、幼稚産業保護論

７．国際貿易の厚生効果と貿易政策→①9 章⑤4 章⑥6, 8 章。
関税、輸出補助金、輸入割当、（輸出自主規制、ローカルコンテント規制）

８．発展途上国における貿易政策Ⅰ：輸入代替工業化政策→②17 章（①11 章）③

９．発展途上国における貿易政策Ⅱ：輸出促進工業化政策→②17 章（①11 章）③

10．発展途上国における貿易政策Ⅲ：事例紹介→②17 章（①11 章）③全体

11．発展途上国の貿易政策と先進国→②17 章

12. 13．先進国の産業貿易政策：戦略的貿易政策、事例紹介→①12 章③全体⑤5 章⑥8 章
※より詳細かつ厳密な議論は⑦9 章参照。ただしある程度の経済学の素養を必要とする。

14. 時間が余れば、以下のどちらかを行う。
Ⓐ国民経済計算統計（ＧＤＰとＧＮＩと「暮らしの質」）。
Ⓑ国際資本移動（投機的移動と実体的移動、海外直接投資（ＦＤＩ）、多国籍企業）。
Ⓒ定期試験準備。

（補足）国際経済学の分野としては、国際経済学 1、2 の上記で扱った領域以外に、国際金融（オープンマクロとも言われ国際収支、為替レートの決定理論等を含む）の領域がある。時間があれば扱いたいが多分無理であろう。独習される方は下記の本をお勧めする。

→クルグマン・オブズフェルド『国際経済―理論と政策（第 3 版）―Ⅱ国際マクロ経済学』新世社。（**クルーグマン・オブズフェルド著（山本他訳）（2014）『クルーグマンの国際経済学―理論と政策（原著第 8 版）：下巻　金融編』、丸善。）**

→ケイブス・フランケル・ジョーンズ著（伊藤隆敏監訳、田中勇人訳）（2003）『国際経済学入門：②国際マクロ経済学編』第９版、日本経済新聞社。

→岩田規久男(2009)『国際金融入門（岩波新書）：新版』岩波書店。